

■真狩村内の状況及び学力向上策 (小学校数:1校、児童数:12人)(中学校数:1校、生徒数:9人)

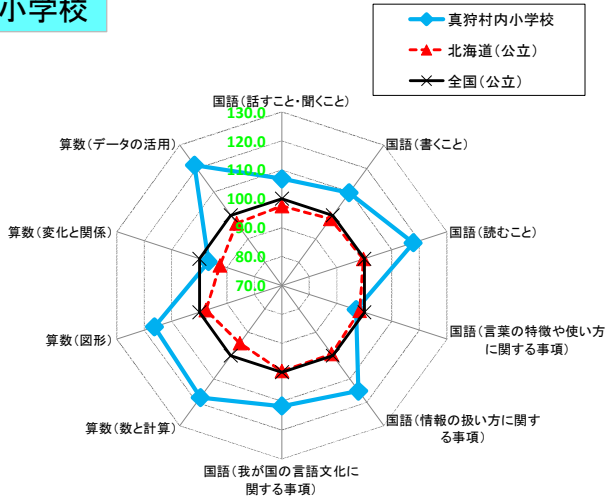
※生徒数が少なく、個人が特定される恐れがあるため、中学校の教科調査及び生徒質問調査のデータは掲載していません。

【教科全体の状況】

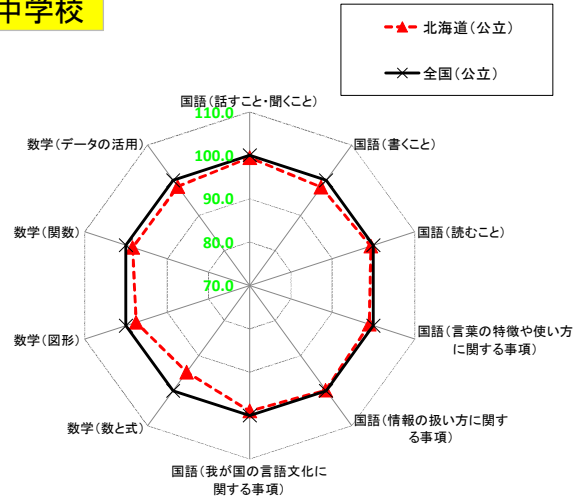
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	73	—
算数・数学	74	—

小学校

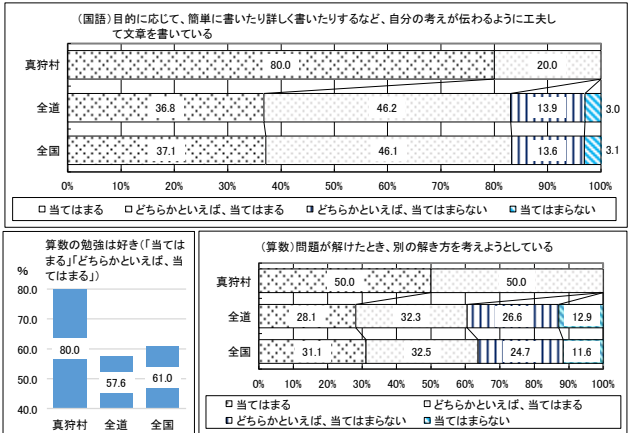


中学校

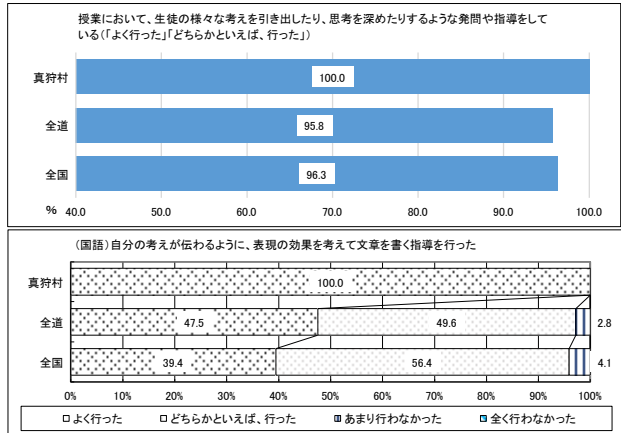


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く活動を行ったことにより、授業改善が図られ、国語の全ての領域、「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題が解けたとき、別の解き方を考えさせる指導を行ったことにより、学習内容の定着が図られ、算数の勉強は好きと肯定的に回答する児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、算数の「数と計算」「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えた文章を書く指導を行ったことにより、授業改善が図られたと考えられる。

【真狩村の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末環境と従来の指導方法を組み合わせた、子どもを主体とする問題解決的な学びの充実
- ◎ 振り返りの重視による自分の学びと高まりを自覚できる授業の構築
- ◎ 豊かな読書経験を生む環境整備による読解力を育む読書活動の推進

【Webページ】



(R6.11掲載予定)